

いろいろなカエデ - 葉と翼果で見分けてみよう -

* 各種の説明で①は葉の裂片の数、②は葉身の大きさ(長さ×幅)、③は翼果(翼のついたタネ)の開きを示しています。大きさは、「日本の野生植物」平凡社による。

カエデの写真は全て前田雅子の撮影

A. よく知っているモミジの形 (手のひら状)

イロハモミジ
(伊呂波紅葉)



- ① 5~7 裂
- ② 長さ 3.5~6 cm 幅 3~7 cm

名前は裂片の数を「イロハニホヘト」と数えたことに由来

オオモミジ
(大紅葉)



- ① 7~9 裂
- ② 長さ 4.5~8 cm 幅 5.5~8.5 cm

イロハモミジよりやや大型で切れ込みが浅く、裂片が太い。

B. 天狗の羽団扇のような形 (はうちわ) とてもきれいな赤色に紅葉します

ハウチワカエデ
(羽団扇楓)

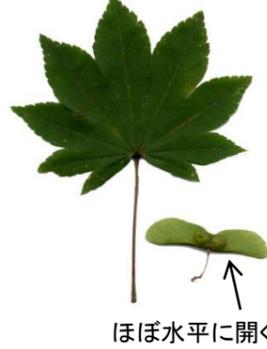


- ① 9~11 裂
- ② 長さ 4.5~9 cm 幅 5.5~11 cm

葉質はイロハモミジよりも厚くてふわふわ感あり。

☆オオイタヤメイゲツ(大型で柄が長い)があるかも!

コハウチワカエデ
(小羽団扇楓)



- ① 7~11 裂
- ② 長さ 4~7.5 cm 幅 5~10 cm

C. 手のひら形の大きな葉 (葉のふちにギザギザがないので一目瞭然)

イタヤカエデ
(板屋楓)



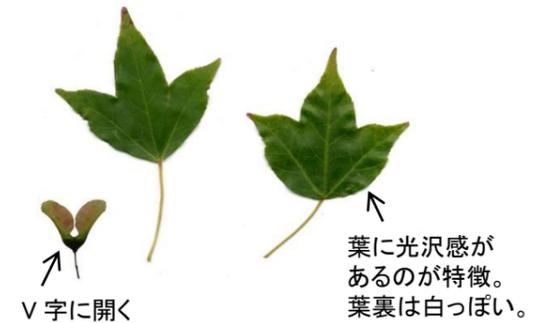
- ① ふつう 5~7 裂
- ② 長さ 11 cm 幅 11 cm
- ③ 翼果は直角か、それより狭いくらいに開く

☆イタヤカエデをさらに細かく分けて、〇〇イタヤとすることがありますが、今回はそれらをまとめて、広義にとらえます。

D. これも葉の縁にギザギザなし

トウカエデ
(唐楓)

基本的に葉の縁のギザギザはないが、幼木では大きなギザギザがあることが多い。



- ① 3 裂(3本の葉脈が目立つ)
- ② 長さ 3~8 cm 幅 2~5 cm

☆街路樹や公園によく植えられています。江戸時代に中国から園芸用として入れられた木です。

種名の右に*がついている種は、雌雄別株なので、雄株には翼果がついていません。

E. 3~5 裂するカエデのいろいろ

ウリハダカエデ*
(瓜膚楓)



- ② 長さ、幅ともに 6~15 cm

カジカエデ*
(梶楓)



- ② 長さ 4~12 cm 幅 5~15 cm

翼が平行の U 字形

テツカエデ
(鉄楓)



- ② 長さ 6~15 cm 幅 5~16 cm

F. 浅い 3 裂か、無分裂のこともよく見ると、1 本の木に両方が混じっている。

ウリカエデ*
(瓜楓)



- ② 長さ 3~8 cm 幅 1.5~5 cm

カラコギカエデ
(鹿子木楓)



- ② 長さ 5~12 cm 幅 2~7 cm

◇東近江市の北花沢町、南花沢町にあるハナノキは有名ですね。花だけでなく、紅葉もとてもきれいです。

ハナノキ*
(花の木)



- ② 長さ 2.5~8 cm 幅 2~10 cm

G. カエデに見えない葉の形

【無分裂の丸い葉】

ヒツバカエデ
(一つ葉楓)



- ② 長さ 7~17 cm 幅 6~12 cm

チドリノキ*
(千鳥の木)



- ② 長さ 8~17 cm 幅 2.5~7.5 cm

【複葉の葉 (一つの葉身が二つ以上の小葉に分かれた葉)】

メグスリノキ*
(目薬の木)



- ② 3つの小葉からなる。小葉は長さ 5~14 cm

ネグンドカエデ*
(トネリコバナカエデ)



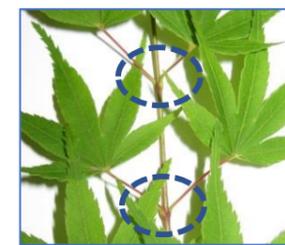
- ② 3~5の小葉からなる。小葉は長さ 5~8 cm

★カエデの特徴は 2 つ

- この 2 つがあればカエデ類にまちがいない -

1. 葉が“対生”している

1 箇所から左右に、対になって出る(破線の楕円枠部分)。



2. “翼果”がある

翼のある 1 対のタネ(翼果)をもつ。両翼の開き具合は、種を見分ける際のポイント。



★カエデに似ている木や、かぶれる木には注意して!

アカメガシワ



葉の形はカエデに似るが、対生ではない。

モミジバフウ



トゲトゲした球状の果実があれば、フウカプラタナス(スズカケノキ)。

ウルシ類(ウルシやハゼなど)も、きれいに紅葉します。まちがって触らないように、気をつけてください。

カエデ類には、この他にアサノハカエデ、ヒナウチワカエデ、ミネカエデ、コミネカエデ、オガラバナ、ミツデカエデ、ホソエカエデなどがあります。